

かがやきの杜のあゆみ

1 共同作業所ができるまで

- 1975年～6年 与謝の海養護学校を卒業する子供たちのための働く場作りの取り組みが丹後各地で行われました。久美浜でも手をつなぐ親の会を中心とする動きの中で、青年学級(後の久美浜町職業教室)が開催されました。
- 1990年以前 久美浜町の青年・成人期の障害者は峰山共同作業所、みねやま作業所へ通所するか、在宅生活又は遠くの入所施設を利用するしかありませんでした。
- 1989年 「久美浜で私も働きたい」「仲間がほしい」という障害者及び家族・関係者の願いに応えるため、久美浜町に障害者福祉施設設置審議会が設けられました。
- 「制度に沿って、人的・物的条件の整備や運営の基礎をより良く充実することのできる認可施設を、町民の理解・協力・共同のもとに設置することをめざしながら、当面無認可共同作業所を出発する。」との答申が出されました。
- 1989年～1990年 久美浜町手をつなぐ親の会を中心に「久美浜町障害者施設を作り育てる会」を作り、共同作業所作りのための町内募金を行い200万円の資金を作り開設に備えました。

2 共同作業所時代

- 1990年6月1日 久美浜町の委託により無認可久美浜共同作業所が利用者8人、職員2人で旧佐濃北小学校の校舎を利用して、竹藤の地に開所されました。
- 以来、障害者・家族・関係者は「早急に久美浜町に法人認可施設の実現を」と願ってきました。
- * 久美浜共同作業所は、久美浜町における唯一の障害者の福祉施設として町内に在住し利用を希望する全ての障害者について、障害種別・障害の軽重を問わず受け入れる。
- * 地元竹藤区をはじめとする地域の方々や久美浜の障害者団体の連絡会を結成し(久障連)、幅広い地域の方々と手を結ぶ等をめざしてきました。
- 1997年4月 知的障害者地域生活ホームが久美浜町栃谷に利用者4人、世話人1人で開所しました。丹後地域で唯一の生活ホームとして、障害者の地域生活を支えてきました。

3 法人認可施設実現に向けて

- 2001年 久美浜町第4次総合計画に2004年度障害者認可施設建設計画が組み込まれました。
- 2002年3月 久美浜町障害者計画に2004年度障害者認可施設建設計画が組み込まれました。
- 2002年4月 丹後6町合併の動きがある中で、町保健福祉課長と共に京都府峰山保健所に対し、2004年度ではなく2003年度計画で認可施設建設の実現に向けて協議しました。
- 2003年6月 知的障害者通所授産施設については実現の方向が出されましたが、精神障害者小規模通所授産施設の国庫補助がつかず、当面事業として知的障害者通所授産施設のみで法人認可の申請を行いました。
- 2003年8月8日 知的障害者通所授産施設の設置経営を目的として、社会福祉法人久美の浜福祉会が法人認可されました。

4 施設・事業の取り組み

- 2003年10月 知的障害者グループホーム「栃の木ホーム」認可。
- 2004年4月 知的障害者通所授産施設「あおぞら」開所。
- 2004年10月 精神障害者小規模通所授産施設「つばさ」開所。
- 2005年2月 知的障害者短期入所事業「あおぞら」事業開始。
- 2005年3月 児童短期入所事業「あおぞら」事業開始。
- 2006年3月 知的障害者グループホーム「第1・第2佐濃ホーム」開設に伴い、「栃の木ホーム」廃止。

5 障害者自立支援法施行から現在まで

- 2006年4月 障害者自立支援法が施行されました。居宅系の福祉サービスは10月から、施設サービスは5年の間に新事業体系へ移行することが求められました。
- 2006年10月 自立支援法に基づき、
- * 共同生活介護・共同生活援助「第1佐濃ホーム」へ移行。
 - * 相談支援事業「あおぞら」開所。
 - * 短期入所事業「あおぞら」開所(児童短期入所事業は制度が消滅)。
- また、京丹後市地域生活支援事業として、「日中一時支援事業」「共同生活支援事業」を受託。
- 2008年4月 知的障害者通所授産施設「あおぞら」、精神障害者小規模通所授産施設「つばさ」を廃止し、次の新事業を開始。

- * 生活介護事業「あおぞら」(定員30人)
 - * 就労継続支援B型事業「つばさ」(定員25人)
 - * 就労移行支援事業「つばさ」(定員6人)
- また、2番目の共同生活介護・共同生活支援事業所として、女性対象の「丸山ホーム」(定員7人)を開所しました。
- 2011年4月 指定相談支援事業所「あおぞら」、新事業を開始。
- 2015年3月 就労移行支援事業「つばさ」登録者0名となり休止する。